

平成30年第2回定例会（9月議会）

## 農林水産委員会提出資料

（所管事項関係）

平成30年9月14日

農 林 水 産 部



# 目 次

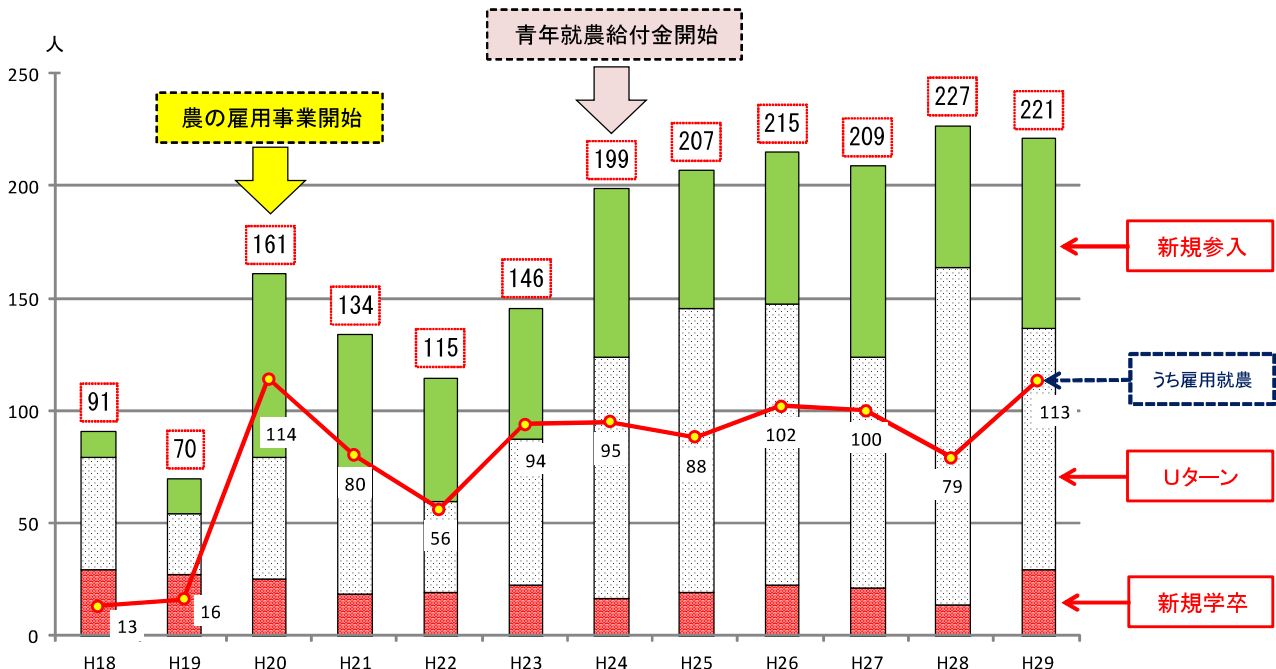
1	平成29年度新規就農者の確保状況について [農林政策課]	1
2	県産農畜産物のPR活動について [農業経済課販売戦略室・水田総合利用課・園芸振興課・畜産振興課]	3
3	りんご黒星病の発生と対応について [園芸振興課]	5
4	水産振興センター栽培漁業施設の整備状況について [水産漁港課]	7
5	県産材のプロモーション活動について [林業木材産業課]	9
6	甘肅省林業庁との技術交流の促進について [森林整備課]	11

# 1 平成29年度新規就農者の確保状況について

農林政策課

- 平成29年度の新規就農者数は221人で、前年度に比べ6人減少したものの、5年連続で200人を超えた。
- 就農区分別では、新規学卒者30人、Uターン就農者107人、新規参入者84人となっており、その比率はこれまでと同様である（新規学卒：Uターン：新規参入=1：5：4）。  
また、農業法人等での雇用就農は、前年度に比べ34人増加し、農の雇用事業が始まった平成20年度に次ぐ113人となった。
- 特に、園芸メガ団地は、新規就農者の確保に貢献しており、事業開始の平成26年度から29年度までの4年間で49人（うち雇用就農35人）が就農した。  
また、独自に研修施設を設置し、積極的に実践研修を行っている市町村において新規就農者が多くなっている。
- 引き続き、就農相談や実践研修等の就農前対策から、技術指導や機械導入支援等の就農後対策に至るまで総合的にサポートし、より一層多くの新規就農者の確保・育成を図っていく。

## 【新規就農者の推移】



- 新規参入：非農家出身者で新たに就農、又は、非農家出身者で県等が行う農業研修修了後に就農した者
- Uターン：農家出身者で他産業から就農、又は、他産業を離職後に県等が行う農業研修修了後に就農した者
- 新規学卒：農家出身者で学校を卒業し直ちに就農、又は、学卒後に県等が行う農業研修修了後に就農した者
- 雇用就農：農業法人等に常雇いされ新規就農した者



## 【就農区分別の推移】

単位：人，%

年度	新規学卒		Uターン		新規参入		合計		園芸メガ団地の新規就農者	
		うち 雇用就農		うち 雇用就農		うち 雇用就農		うち 雇用就農		うち 雇用就農
平成20年	26 (16%)	6	54 (34%)	34	81 (50%)	74	161 (100%)	114		
平成21年	19 (14%)	6	43 (32%)	10	72 (54%)	64	134 (100%)	80		
平成22年	20 (17%)	1	40 (35%)	5	55 (48%)	50	115 (100%)	56		
平成23年	23 (16%)	14	65 (45%)	26	58 (40%)	54	146 (100%)	94		
平成24年	17 (9%)	2	107 (54%)	30	75 (38%)	63	199 (100%)	95		
平成25年	20 (10%)	4	126 (61%)	38	61 (29%)	46	207 (100%)	88		
平成26年	23 (11%)	8	125 (58%)	34	67 (31%)	60	215 (100%)	102	1	1
平成27年	22 (11%)	9	102 (49%)	23	85 (41%)	68	209 (100%)	100	10	3
平成28年	14 (6%)	3	150 (66%)	32	63 (28%)	44	227 (100%)	79	14	9
平成29年	30 (14%)	10	107 (48%)	35	84 (38%)	68	221 (100%)	113	24	22
増減 H29-H28	16	7	▲43	3	21	24	▲6	34	10	13
過去10年平均	21 (12%)		92 (50%)		70 (38%)		183 (100%)			

(%)は、合計数に占める割合

## 2 県産農畜産物のPR活動について

農業経済課販売戦略室  
水田 総合利用課  
園芸振興課  
畜産振興課

### 1 築地市場と連携した外食業界への県産農産物のPR

[6月30日・築地市場(東京都)]

- 外食業界への県産青果物の販路拡大を図るため、築地市場の卸業者や納入業者、取引のある料理人を対象に、秋田での食べ方や産地情報などを紹介する研修会を開催した。



県内有名料理人による食材紹介



県産農産物を使ったレシピの試食

### 2 食の祭典「FOOD SONIC 2018 in 秋田」での県産えだまめのPR

[8月11~12日・エリアなかいち(秋田市)]

- グルメサイト「食べログ」で高評価を得ている県内外の飲食店が集うイベント「FOOD SONIC」において、県産えだまめの試食・販売を実施した。



県産えだまめPRブース



県産えだまめの試食・販売

### 3 大手給食企業と連携した社員食堂での県産食材の利用拡大

[9月1日~11月30日・大手企業社員食堂(東日本)]

- 本県と連携協定を結ぶエームサービス株式会社が運営する社員食堂の「北海道東北フェア」において、県産食材を使ったメニューを提供している。
- 同フェアでは、夏の甲子園で活躍した金足農業高等学校への全国からの応援に感謝する「応援ありがとう」メッセージを施設に掲示している。



社食フェアの様子



「応援ありがとう」ポスターの掲示



#### 4 ブラウブリッツ秋田ホームゲームでの「比内地鶏弾力」冠マッチの開催

〔9月2日・あきぎんスタジアム（秋田市）〕

- ブラウブリッツ秋田のホームゲームの冠名称に「比内地鶏弾力」を用いるとともに、比内地鶏を両チームに贈呈するなど、ストロングポイントのPRを実施した。



ブラウブリッツ秋田の選手とPR



試合会場周辺でのPR

#### 5 タイのバドミントン選手に秋田牛を提供

〔9月6日、8日・美郷町〕

- 2020年東京五輪におけるタイ王国のホストタウンとして登録されている美郷町において、合宿中のナショナルチームへ秋田牛を提供し、PRを実施した。



ウェルカムパーティでPR



合宿の夕食で提供

#### 【今後の予定】

##### 1 秋田米

- 9月26日から始まる、につぼん丸の「秋の味覚クルーズ」で、「あきたこまち」のプロモーションを実施する。
- 10月1日～11月11日に、京急あきたフェア2018において、京急百貨店等における県産米のPR販売のほか、オリジナル日本酒や秋田の食材によるイベントを実施する。

##### 2 青果物等

- 9月15日に、えだまめのオリジナル品種「あきたほのか」、10月5日には、しいたけ・ねぎについて、東京都大田市場で販売促進PRを実施する。
- 9月24日に、平成31年度のデビュー品種を決める「第8期NAMAHAGEダリア選抜総選挙」を東京都大田市場で開催する。

##### 3 秋田牛

- 10～11月に、県内の秋田牛取扱店（飲食店・販売店約100店）において、メニューフェア・販売促進キャンペーンを実施する。

##### 4 比内地鶏

- 10～2月に、県内の宿泊施設（8施設）において、県外客へのPRと施設での利用定着を図るため、メニューフェアを開催する。

##### 5 輸出

- 11月に、タイ王国において、秋田牛のPRイベントを開催する。また、沖縄県で開催される国際食品商談会において、県産農産物の加工品をPRする。

### 3 リンゴ黒星病の発生と対応について

園芸振興課

県外から購入した苗木に、特効薬であるDMI剤に耐性の疑いがある黒星病が確認されたことから、関係機関が連携し、発生状況を把握するとともに、県内に拡散しないよう、防除対策を徹底している。

#### 1 リンゴ黒星病とは

- 戦後、海外から侵入した病害で、現在は国内に広く発生している。
- 葉や果実などに病斑が発生し、果実では、亀裂が生じるなど被害が大きい。
- DMI剤の散布により長年発生が抑えられていたが、平成28年に青森県で耐性菌が確認されて以来、全国的に耐性菌の拡大が懸念されている。



【葉】黒くすすけた斑点



【果実】黒い斑点

#### 2 経緯

- 5月下旬から6月上旬に、横手市の3農家、由利本荘市の2農家、大館市の1農家において、県外から購入した苗木に黒星病が発生した。
- このうち、横手市と大館市については、国の研究機関による遺伝子解析の結果、DMI剤耐性菌と同様の遺伝子変異を持つ黒星病菌と確認された。
- これを受け、地域振興局、果樹試験場、JA等が園地を巡回し、苗木に黒星病が発生している園地については、耐性菌の有無にかかわらず、焼却処分や、病徴がみられない地際部までの切り戻し等をするよう指導した。
- また、病虫害防除所は、6月12日に「防除対策情報」を、7月9日に「注意報」を公表し、全県の農家に注意を喚起した。
- 発生状況を把握し、防除対策を徹底するため、7月20日に、市町村やJA等関係機関からなる「リンゴ黒星病緊急対策連絡協議会」を設置するとともに、地域振興局に「リンゴ黒星病対策チーム」を設置し、現地調査と防除指導等を実施している。

(参考)

期 日	対 応 状 況
6月12日	病虫害防除所で「防除対策情報」を発表
6月21日	秋田県果樹通信で全県に周知
6月26日	ふれあい果樹試験場（平鹿管内）で生産者に周知
7月3日	ふれあい果樹試験場（仙北管内）で生産者に周知
7月5、6日	共防調査員会議（県南部、県北部）で全県の実産者に周知
7月9日	病虫害防除所で「注意報」を発表
7月10、11日	リンゴ黒星病に関する緊急対策研修会を開催（県北、中央・県南）
7月20日	リンゴ黒星病緊急対策連絡協議会を開催

### 3 発生状況調査（6～8月）

- 青森県でDMI剤耐性菌が発見された28年以降に購入した苗木について調査した。
- 616戸が8,418本の苗木を購入し、このうち、DMI剤耐性菌が疑われるものは31戸423本であったが、既に焼却や切り戻し等が行われており、これらからの拡散は認められていない。
- ごく一部の園地において、購入苗木に由来しないDMI剤耐性の疑いがある黒星病が確認されており、遺伝子解析を進めるとともに、防除を徹底しながら監視している。

8月31日現在

地域	購入戸数 (戸)		購入本数 (本)	
		DMI剤耐性菌が 疑われる苗木		DMI剤耐性菌が 疑われる苗木
鹿角	164	1	2,370	4
北秋田	7	1	103	35
山本	1	0	5	0
秋田	1	0	20	0
由利	7	2	588	118
仙北	9	0	53	0
平鹿	401	27	5,026	266
雄勝	26	0	253	0
合計	616	31	8,418	423

### 4 今後の対応

- 連絡協議会及び対策チームにおいて、引き続き、生産者に注意喚起を図りながら、早期発見・早期防除に努める。
- 果樹試験場では、DMI剤に頼らない防除体系の確立に取り組んでおり、効果が見込まれるものは早期に普及するとともに、国に対し、りんご黒星病に治癒効果の高い新たな薬剤の早期登録と普及、育苗段階における防除技術の確立を要望していく。
- 健全な苗木を供給するため、秋田県果樹協会のオリジナル品種等の苗木の生産体制を強化していく。

## 4 水産振興センター栽培漁業施設の整備状況について

水産漁港課

平成28年度に開始した水産振興センターの栽培漁業施設を最新技術に対応した施設とするリニューアル工事は順調に進捗し、本年度で完成予定である。

### 1 整備の概要

#### (1) 整備状況

- 平成28年度 親魚棟 R C造997m<sup>2</sup> 水槽20t×6槽、5t×6槽、50t×6槽
- 〃 機械棟 R C造180m<sup>2</sup> 熱源設備、給気設備、受変電設備、自家発電設備
- 〃 トイレ棟 木造17m<sup>2</sup>
- 〃 取水施設 ポンプ3台、海水ろ過機4基他
- 平成29年度 生産棟 R C造996m<sup>2</sup> 水槽20t×10槽、50t×6槽
- 平成30年度 育成棟 R C造1,444m<sup>2</sup> 水槽50t×22槽

#### (2) 予算概要

単位：百万円

年度	H27	H28	H29	H30	計
事業費	34	1,106	644	670	2,454

※ H27は、基本・実施設計

### 2 施設の概要

#### (1) 特徴

- 手すりの設置や出入口の段差を解消するなど、見学者の利便性や安全に配慮。
- 周辺環境に配慮した外観にするとともに、秋田らしさをアピールするため、内装及び外装に県産材を活用。

#### (2) 活用状況

##### ア 親魚棟

- 昨年度から閉鎖循環式飼育システムを使用してマダイ、ヒラメ、キジハタの親魚養成を行っており、いずれの魚種も本年度に入って順調に採卵済み。

##### イ 生産棟

- マダイ、ヒラメの種苗については、施設整備中のため水槽数に制約があることから、目標とする放流数の約半数を生産。
- トラフグ種苗については、計画どおり生産し、放流を実施。
- 9月以降、閉鎖循環システムを使用し、アユの種苗生産を開始する予定。



### 3 第39回全国豊かな海づくり大会に向けて

- 本年9月30日に行われるプレイベントに向け、放流行事用の種苗としてマダイ約2千尾、トラフグ約1千尾を生産棟で育成中。
- 平成31年秋季の本大会に向けては、マダイ種苗を育成棟で、トラフグ種苗を生産棟で生産する予定。



水産振興センター全景写真（平成30年8月撮影）

## 5 県産材のプロモーション活動について

林業木材産業課

秋田スギ等のブランド力の向上と需要拡大を図るため、業界団体と一体となって県内や首都圏等におけるプロモーション活動を展開している。

### 1 ウッドファーストあきた県民運動の推進

- 木材の優先利用に取り組む県民意識を喚起するため、木の良さや使うことの大切さを発信する「木とのふれあい体験・秋田県産材フェア」を開催。
  - ・木造建築の事例紹介、木製品展示・販売、木のおもちゃ遊び体験 等



道の駅おおゆ

[平成30年度計画]

開催場所	開催日	来場者数	出展団体
道の駅おおゆ(鹿角市)	8月18日	1,075人	7団体
秋田駅ぽぽろ一ど(秋田市)	10月7日	—	7団体(予定)

### 2 首都圏等における販売促進活動

#### (1) 森と木の国あきた展

- 大手建設会社や設計事務所、建材商社、施主などが来場する全国規模の大型展示会に秋田県ブースを出展。7月の展示会(宮城県)には県内企業5社が参加し、販売促進活動や商談等を実施。



夢メッセみやぎ

#### (2) 秋田材展

- 新たな木材市場を開拓するため、展示販売会を開催し、製品に対する求評やニーズの調査を実施。
- 販売ルートとして定着後は、業界団体自らが秋田材展を継続。

[平成30年度計画]

区分	開催場所	開催日	来場者数	県内出展企業
(1)	夢メッセみやぎ(宮城県仙台市)	7月7～8日	18,085人	5社
	東京ビッグサイト(東京都江東区)	1月29～30日	—	17社(予定)
(2)	(株)東京木材相互市場相互筑波市場(茨城県つくば市)	11月22日	—	15社(予定)



### 3 東京オリンピック・パラリンピック関連施設における県産材利用

#### (1) 新国立競技場

- 屋根や外装に使用する秋田スギの集成材や製材品が県内の木材加工企業を通じて納品され、現在、木材の取付工事中。

[納品に関わった企業]

(株)杏澤製材所、東北木材(株)、(株)門脇木材、(株)宮盛



新国立競技場の整備

#### (2) 選手村の交流施設（ビレッジプラザ）

- 本県と大館市を含む全国63自治体が、柱や梁、床等に使用する製材品や集成材、合板等を提供予定。

・提供時期 平成31年9～11月

- 木材提供に当たっては、丸太の生産や加工の各作業において、林業大学校生や高校生等の次代を担う若者の積極的な活用を計画。



ビレッジプラザ内観

#### (3) 今後の対応

- 新国立競技場の内装や有明体操競技場の外装など、木材利用が計画されている施設を対象に、県産材利用の働きかけや納品ルート・時期に関する情報収集を継続。

## 6 甘肅省林業庁との技術交流の促進について

森林整備課

本県と友好提携を結び、交流を進めている中国甘肅省との友好関係をさらに発展させるため、甘肅省林業庁から訪問団を招聘し、林業分野における技術協力等を促進する覚書に調印するとともに、同訪問団と県内林業関係機関との交流を行った。

### 1 甘肅省林業庁訪問の概要

- (1) 期 日 平成30年 7月23～25日
- (2) 訪 問 団 甘肅省林業庁副庁長ほか4名
- (3) 主な内容 7月24日 現地視察、調印式、交流懇談会

#### 【覚書の主な内容】

- 双方が森林の育成・保護及び保育技術、自然災害後の植物生態の修復、林業関係分野における研究等のテーマにおいて協力する
- 訪問団による相互訪問の実施
- 技術者による人的交流の実施

7月25日 堀井副知事表敬訪問、林業研究研修センター視察

### 2 今後の対応

今年度中に技術協力の具体的な内容や方法を検討し、訪問団による相互交流を促進する。



調印式の様子